

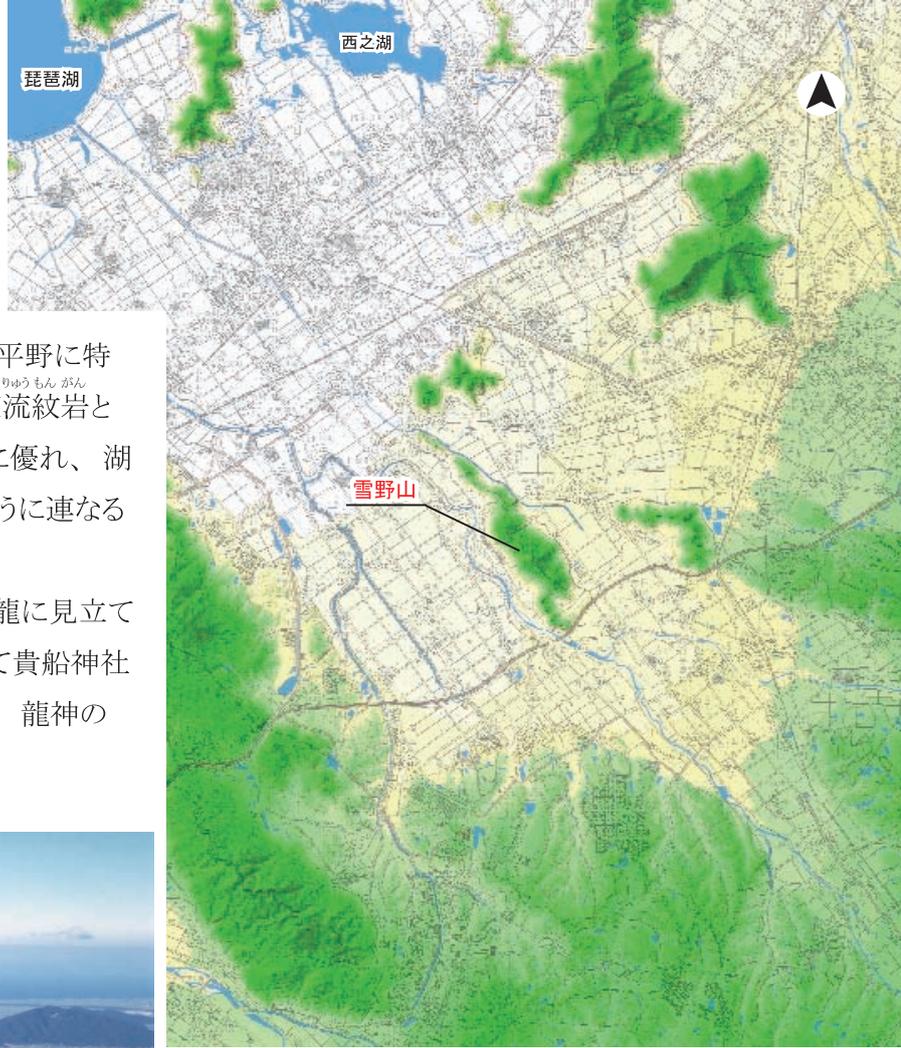
ゆき の やま こ ふん

史跡 雪野山古墳



1

雪野山



ゆきのやま
雪野山は東近江市の西南に位置し、湖東平野に特徴的な景観をなす独立山塊の一つで、湖東流紋岩ことうりゅうもんがんという岩石で構成されています。四方の眺望に優れ、湖東平野はもちろんのこと、琵琶湖やその向こうに連なる比良山地を見渡すことができます。

雪野山は小高い峰が8つあるところから、龍に見立てられます。標高308.8mの山頂には、かつて貴船神社（祭神：たかおかみの神）をまつる祠があり、龍神の住む神聖な山として崇められていました。



雪野山から琵琶湖の景観

1989年（平成元）年9月、その山頂部で未盗掘の竪穴式石室が見つかり、古墳時代前期（4世紀前半）の古墳であることが分かりました。これが雪野山古墳です。大阪大学 都出比呂志教授（当時）を団長とする「雪野山古墳発掘調査団」によって発掘調査が実施され、平成8年に報告書が刊行されました。その成果により、雪野山古墳は学術的に裏づけられ、高く評価される古墳となり、平成26年3月に史跡に指定されました。



空からみた雪野山古墳

雪野山古墳の墳丘

2

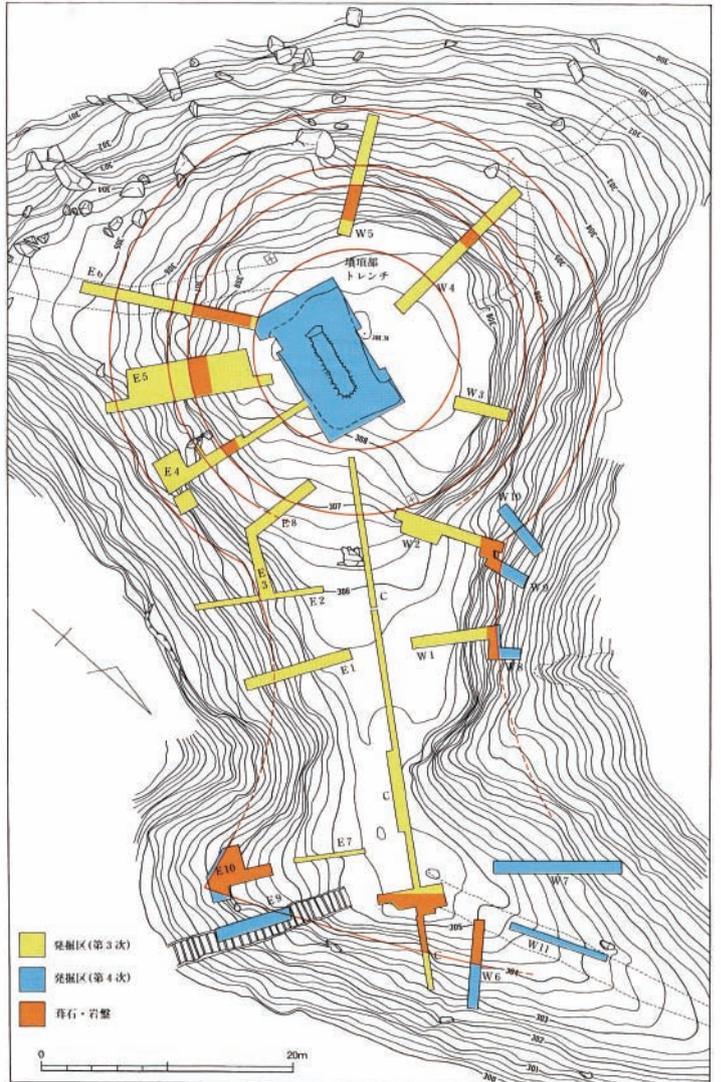
雪野山古墳は、雪野山の頂上部に後円部、それに続く尾根が前方部となる前方後円墳^{ぜんぽうこうえんふん}です。後円部は斜面の中ほどに平坦面がめぐる二段築成で、その平坦面が北北東に延びて前方部の上面となっています。

墳丘^{ふんきゆう}の築造は地形を活かし、突出した地形は削り、逆に窪んだ部分には土を盛って、形作っています。

斜面には葺き石^{ふきいし}を貼り付けていますが、自然の岩肌^{はにわ}を削っただけの部分もあります。なお、埴輪はすえられていませんでした。



前方部東隅の葺き石の様子



墳丘測量図

古墳の大きさは、全長 70m、後円部直径 40m、同高さ 4.5m、前方部の高さ 2.5m 以上です。



前方部から後円部の状況

前方部は緩やかなスロープ状になっており、そこから一段高い後円部が望めます。



中世山城に改変（写真：後円部南側）

中世に後円部を主郭とする山城が築かれるなど、墳丘全体に後世の改変が加えられています。

3

雪野山古墳の埋葬施設

後円部の墳頂平坦面ふんちよう へいたんめんやや東よりの位置に、ほぼ南北方位 (N-11° -E) を主軸とする竪穴式石室たてあなしきせきしつがあり、石室の床面には粘土床の上に舟形木棺ふねがた もつかんが安置されていました。

竪穴式石室

石室を築くために掘った穴ぼこう（墓壙）は上段 10.6×7m、下段 8.6m×4.8m の二段に掘り込む構造で、床面に細かい砂を敷き詰めた後、石室を組み上げています。

石室の規模は、長さ 6.1m、幅は北端で 1.5m、南端で 1.35mあり、高さは北端で 1.6m、南端で 1.4m です。幅も高さも北側が大きく作られています。両短辺の上面では壁面が丸く湾曲していますが、全体的には壁のせり出しは少ないようです。壁は小さい石こぐちを小口積み風に積み上げていますが、かなり不揃いです。下半部はやや内傾気味に積み上げ、中ほどの高さで一旦積むのを停止します。木棺を安置して葬送の儀礼をおこなったと考えられます。そこから上は、ほぼ垂直に積み上げます。壁面には一面に赤色顔料（ベンガラ=酸化第 2 鉄）が塗られていました。

天井石は南端に 1 枚しか残っていませんでしたが、扁平な石を 10 枚ほど連ねて側壁を覆い、その上や隙間に粘土を貼って密封していたようです。



竪穴式石室の上面

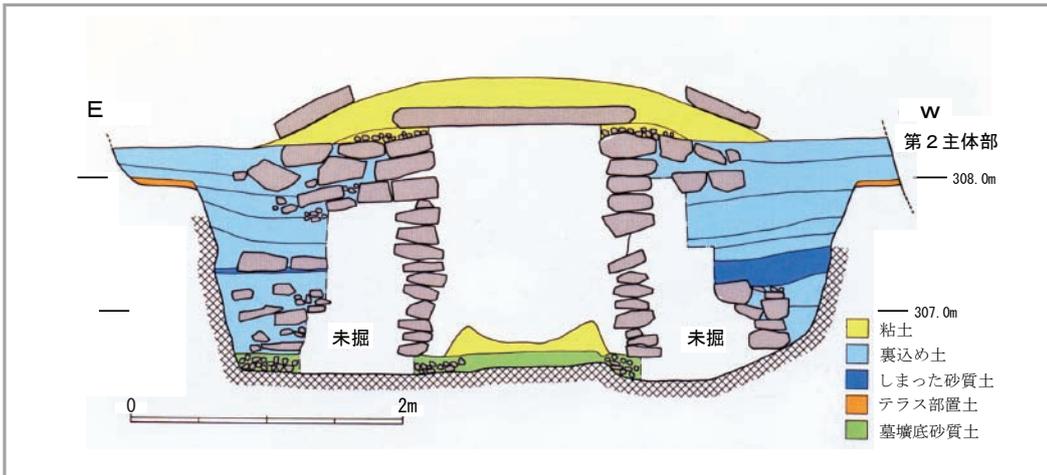
写真中央が発掘調査された竪穴式石室です。その西側にも埋葬施設の輪郭が見えており、2つの埋葬施設があったようです。

竪穴式石室の壁面



石室横断面図

(概念図)



上面は被覆粘土が施され、石室を縁取るように平石が置かれます。

石室の中ほどで構築を止めています。その上部の裏込め土に炭化物が含まれ、火の使用行為が見てとれます。

なお石材は、雪野山で産出される湖東流紋岩が使われています。

粘土床

石室内部の床面には、木棺を安置するための粘土床が据えられていました。墓壇の底に細かい砂を敷き詰め、精良な灰色粘土で床を成形しています。

粘土床の長さは5.8m、幅は北端で1.15m、南端で0.95m、厚さは東西端の厚い部分で20cm、中央部の薄い部分で7cmをはかります。レベルは、北端の方が南端よりも、19cm高くなっており、木棺も同レベルと考えられます。石室、粘土床や副葬品の特徴から、埋葬頭位は北向きであったと推定されます。



粘土床断面



南端の縄掛突起

木棺

木棺は大半が腐って消失していましたが、部分的に残存し、材質はコウヤマキが使用されています。

粘土床の痕跡から推定される木棺の大きさは、長さ5.6m、幅北端0.9m、南端0.8mで、両端に半環状（北端は方形に近い）の縄掛突起なわかけとつきを持っていたと考えられます。粘土床の断面のカーブが円形とならずに、ゆるやかなところから、木棺は舟底形をしていたことが分かり、くり抜き式の舟形木棺であったと理解されます。

また、棺内の2ヶ所で仕切り板の一部が残っていて、棺は3分割されていました。

4

雪野山古墳の副葬品

副葬品は、3面の三角縁神獸鏡を含む銅鏡5面、武器・武具を中心とする鉄製品に、多数の銅鏃、初現的な形態をもつ鍬形石と琴柱形石製品等の石製品類、ガラス小玉、供献用の壺、さらには鞆や合子など様々な漆製品で構成されています。



小札革綴冑の出土状況



銅鏡の出土状況



鍬形石の出土状況

副葬品一覧

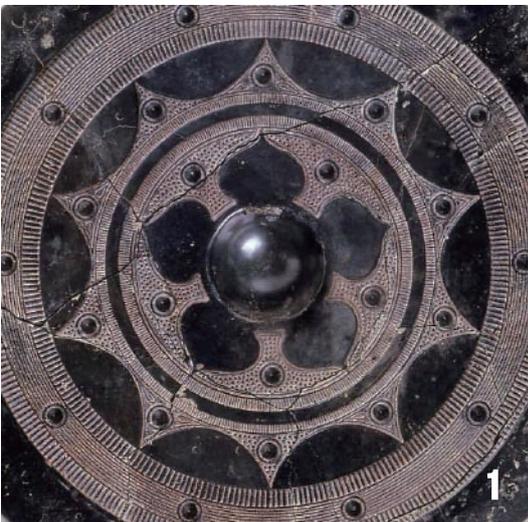
- ・漆製品 34点
鞆2、鞆の背負い板、たてぐし 堅櫛26、ごうす 合子、木製短甲、菱形文様を持つ漆製品など
- ・銅鏡 5点
ないごう 内行花文鏡、だりゆうきょう 龍鏡、さんかくえん 三角縁波紋帯盤龍鏡、さんかくえんからくさもんたいし 三角縁唐草文帯四神四獸鏡、しんしゆつめいさんかくえん 親出銘三角縁四神四獸鏡
- ・銅鏃 96点
- ・石製品 5点
くわがたいし 鍬形石、ことじがたせきせいひん 琴柱形石製品、ぼうすいしゃがたせきせいひん 紡錘車形石製品、くだたま 管玉
- ・ガラス小玉 2点
- ・鉄製品 およそ75点
こさね 小札革綴冑、かわとじかぶと 鉄鏃43本、てつぞく 鉄刀2、鉄剣5、鉄ヤリ3、ヤリガンナ2、のみ 鑿1、針状品3、鉄鎌2、刀子5以上、ヤス9～11以上
- ・壺形土器 1点

石室内の保存状態が良好であったため、副葬品本来の配置状態や副葬品のセット関係が把握でき、その意義はたいへん大きいものです。

多彩な漆製品で特徴付けられる前期古墳出土の一括資料として極めて重要であることから、平成13年6月、重要文化財に指定されました（副葬品218点附棺材）。



堅櫛と合子の出土状況



- 1号鏡 ないこうかもんきょう 内行花文鏡 径約 23.6cm
- 2号鏡 だりゆうきょう 鼉龍鏡 径約 26.0cm
- 3号鏡 さんかくえんはもんたいいぼりゆうきょう 三角縁波紋帯盤龍鏡 径約 24.7cm
- 4号鏡 さんかくえんからくきもんたい しんしんしじゅうきょう 三角縁唐草文帯四神四獣鏡 径約 24.1cm
- 5号鏡 しんしゅつめいさんかくえん しんしんしじゅうきょう 采出銘三角縁四神四獣鏡 径約 24.2cm

三角縁神獣鏡と倭鏡

前期古墳には、銅鏡が盛んに副葬されます。魔よけや、^{きつしよもん}吉祥紋・吉祥句によって富栄えることが祈られ、また^{いしんざい}威信材でもありました。

三角縁神獣鏡は、盤龍鏡タイプ1面と四神四獣鏡タイプ2面を含んでおり、三角縁神獣鏡の中でも古い時期のものです。内行花文鏡と甕龍鏡は緻密な作りで、国内産の古式のもの。

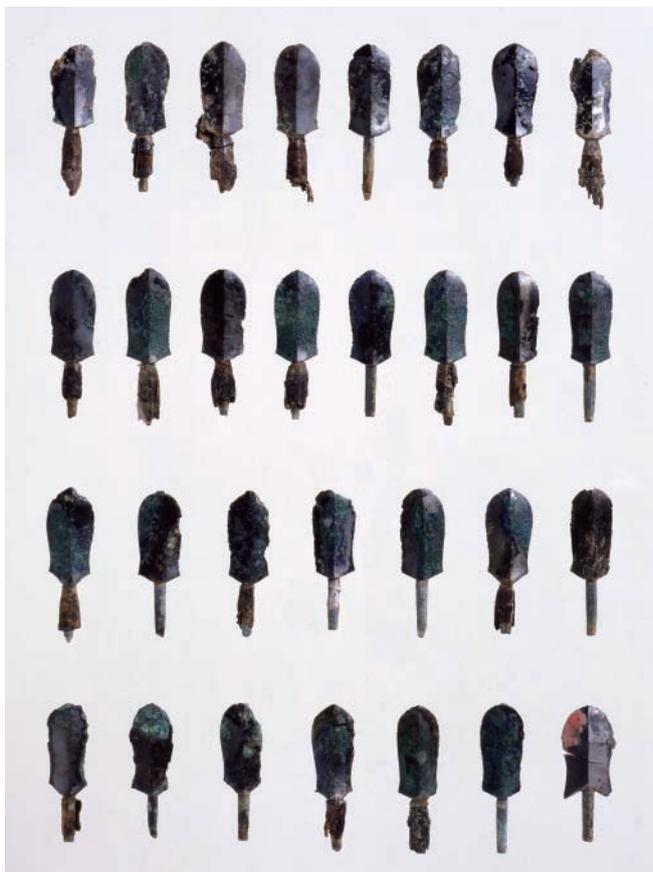
国内産の精巧な鏡が古い三角縁神獣鏡と出土することで、国内での鏡生産が従来よりも遡って考えられるようになりました。

ゆき どうぞく

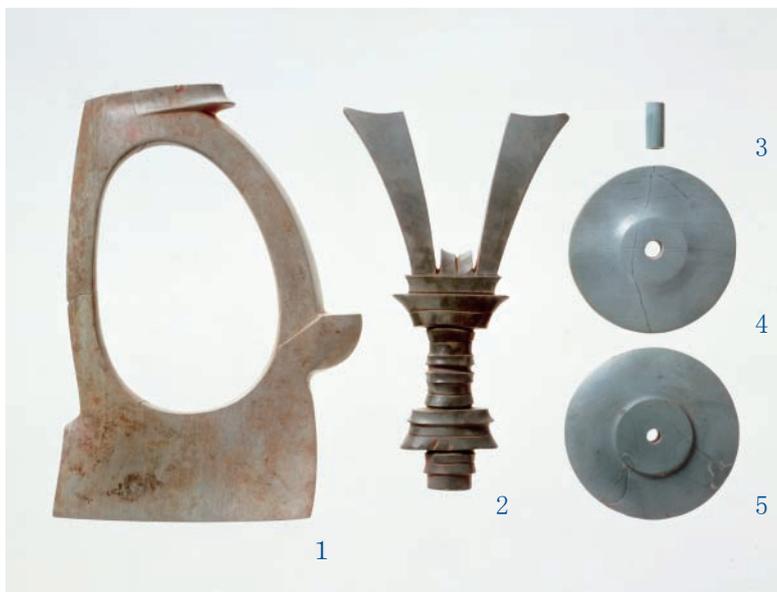
靱と銅鏃

靱は弓矢を入れる矢筒で、板に結びつけて背負う形のもので、棺内出土の靱は、革に絹糸を菱形文様に組み上げ、黒漆で固めた筒部分と漆塗木製の底箱からできています。外面に水銀朱を塗布し、鮮やかな赤色に仕上げられています。靱には銅鏃が鏃側を上にして納められます。光り輝く美しさを誇示した儀礼用の鏃とされます。

右：棺内靱の取り上げ整理後の状況
下：棺内靱に伴う銅鏃



石製品



石製品は、硬質な碧玉へきぎよくでつくられた宝器的な意味合いをもつ遺物です。鍬形石 (1) は、九州でつくられた貝輪を祖形にした腕輪形の石製品で、系譜上の鍵となる最古相のものとして知られます。琴柱形石製品 (2) は、Y字形の儀仗ぎじょうのような形の石製品です。被葬者の頭部近くから出土し、頭部近辺を飾る祭具と考えられています。管玉 (3) は、古い時期には数点しか副葬されなくだたまい貴重品です。紡錘車形石製品 (4・5) は、貝製装飾品を祖形とした石製品で、棺内出土の鞆の底部近くから出土しました。

鉄鍬と鉄製農工漁具

鉄鍬てつせくは 43 本が出土し、多様な形態のものが副葬されています。矢柄やがらがなく、鍬身だけ副葬されたものもあります。またわざと壊して副葬されたものもあり、銅鍬の一部や、刀子とうす、ヤスなども破壊副葬されたものと考えられています。



ヤリガンナ (1・2)、鑿のみ (3)、鎌 (4・5)、刀子 (6～10)



▲ 鉄鍬

ヤス ▶





小札革綴冑復元

こざねかわとじかぶと

小札革綴冑

小札革綴冑は初現期にあたる甲冑で、その類例は少なく、形態からは中国大陸からもたらされたものと考えられています。木製短甲の痕跡も見つかっており、セットで副葬されていたようです。



小札革綴冑

刀剣類

棺内の中央区画および南区画から刀2点、剣3点が出土し、棺外からは剣2点、ヤリ3点が出土しています。

南区画の刀は長さ96cm以上、古墳時代前期でも有数の大きさです。棺外のヤリは、柄の漆膜の痕跡から、柄を含めた長さが4.6mの長大なものであった可能性があります。

木質で腐食しやすい柄の部分が残っており、刀剣類の構造の解明に成果をもたらしました。



鉄ヤリ

つぼがたどき

壺形土器

壺形土器は、東海地方の土器の影響を受けて作られた葬送用の加飾壺^{かしよくつぼ}で、棺内の南側に立った状態で置かれていました。壺内部に水銀朱が付着しています。被葬者の頭部、鍬形石周辺に特に水銀朱^{すいぎんしゅ}が残っていたことから、木棺中央区画に被葬者を安置して副葬品を置いたのち、壺から水銀朱をまく儀礼をおこない、そのあと土器を南区画に副葬したと考えられています。





5 雪野山古墳へのアクセス

雪野山のふもとの「雪野山歴史公園」から徒歩約 30 分の登山です。(標高差約 200m)

「雪野山歴史公園」へは…

- ・ JR琵琶湖線近江八幡駅から「近江鉄道バス」日八線もしくは長峰線「羽田西」バス停下車徒歩 15 分
- ・ 名神高速道路八日市I.Cより車で 25 分、蒲生S.I.Cより車ですぐ

※雪野山古墳の竪穴式石室は埋め戻されており、現在見ることはできません。



東近江市の遺跡シリーズ 1 「史跡 雪野山古墳」 第3版

編集・発行 東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町 2225

TEL 0748-42-5011 IP 050-5801-5011

FAX 0748-42-5816

[平成 28 年 3 月発行]

このリーフレットは、平成 27 年度国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」で作成しました。